

学習指導計画

岡崎西高等学校

教科(科目)	理科(化学基礎)		授業者	樋口 貢
日時	平成28年 7月 5日(火) 第 5 限		対象・場所	2年4組教室
単元	第1編 第3章「粒子の結合」(6時間)			
本時の位置	3. 分子の極性と分子間にはたらく力(4時間目)			
論理的思考 の観点	② 必要な情報を抽出し、分析する。 ④ 事象の関係性について洞察する。			
指導 計画 ・ 本 時 の 過 程	導入	分子の形と極性を分類する問題を解く。 極性の有無によらず、すべての分子間に引力がはたらくことが既に知られていることの確認する。		
	展開	1 「分子量と沸点」と「分子の極性と沸点」のグラフを見て、以下のことを考える。 ・沸点と分子間力には、どのような関係性があるのか。またその理由は何か。 ・どのようなときに沸点が高くなるのか。 2 1で考えたことを、ホームルーム内の他生徒に説明する。		
	まとめ	無差別に選ばれた生徒数名が、全体の前で説明する。		
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・沸点と分子間力の関係を、分子運動や状態変化などの観点から説明できる。 ・沸点が高くなる条件を、グラフから適切に読み取ることができる。 ・学習活動に意欲的に参加している。 			
反省	<ul style="list-style-type: none"> ・分子運動のイメージがうまく描けない生徒が何人か見られた。 ・極性の有無や分子量以外にも分子間力を決定する因子があることを見抜いた生徒もいた。 高校での学習内容の範囲外なので、そのフォローが必要である。			